

# 久留米大学バイオ統計センター公開セミナー

以下の要領にて、公開セミナーを行います。奮ってご参加ください。

日時：2019年11月26日火曜日, 16:00-18:00

場所：久留米大学バイオ統計センター 講義室

<http://www.biostat-kurume-u.jp/access/>

16:00-17:00 森永 潤 (久留米大学大学院医学研究科博士課程4年)

## 「血液透析患者における血中アンジオポエチン様因子2

### 濃度と死亡リスクの関連」

背景：本邦に30万人以上存在する維持血液透析患者は、老化フェノタイプの進行により生命予後が不良であるが、この老化病態は全身性の慢性炎症により進展される。本研究では、慢性炎症誘導因子アンジオポエチン様因子2 (ANGPTL2) の血中濃度が血液透析患者の生命予後と関連するかを検討した。

方法：多施設共同前向きコホート研究により412名の血液透析患者を6年間フォローアップし、ベースライン時の血中ANGPTL2濃度と生命予後の関連を検討した。血中ANGPTL2濃度はELISA法を用いて測定した。GPTL2は解析時に対数変換した。

結論：血液透析患者において血中ANGPTL2濃度高値は死亡リスクと関連する。血中ANGPTL2濃度は透析患者の老化フェノタイプの進展指標となる可能性がある。

17:00-18:00 小原 仁 (久留米大学大学院医学研究科博士課程4年)

## 「医事会計システムへの実装を志向したがん登録症例を 識別する統計モデルの開発：多施設共同研究」

2016年1月から施行された全国がん登録事業では、医療機関等からの症例の届出を義務化することで、高い悉皆性を期待できるがん情報の収集が可能となった。しかしながら、がん登録症例の届出を行う医療機関では、多くの外来や入院患者のなかから効率よくがん登録症例を検索することは容易ではない状況にある。そこで本研究では複数施設の医事会計システムから取得した診療情報をもとに、がん登録症例を効率的に識別する統計モデルの開発と開発した識別モデルの判別能の評価を試みた。開発したモデルを未知となる評価用データセットに適用した判別能(95%信頼区間)は、感度92.0% (90.5%-93.3%)、特異度89.1% (88.7%-89.6%)の精度で、がん登録の検索対象となる症例のうち82.2%を除外できた。保険診療を行う多くの施設で取得可能な診療情報をもとに開発した本識別モデルは、がん登録の症例検索に係る判別作業の効率化を期待できる。